

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第13回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2009年4月10日 (金) 13:30~16:00

2. 場所 日本原子力技術協会A・B会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 阿部(主査), 岡本(副主査), 片寄(幹事), 柏木, 河西, 坂下, 櫻井, 三本木, 武部, 中瀬, 中山, 土生, 水越 (12名) (開始時)

坂下 (途中出席)

(代理出席委員) 目黒 (高橋代理) (開始時), 川寄 (大浦代理), 北島 (宮本代理) (3名)

(欠席委員) 東 (1名)

(常時参加者) 伊藤, 大間, 御子柴, 水井, 菊池 (5名)

(欠席常時参加者) 三根, 大内, 中山, 小倉, 熊野, 杉山, 藤井 (7名)

(傍聴) 中村, 前田, 森山, 吉田 (4名)

(事務局) 谷井

4. 配付資料

F9Ph2SC13-1 第12回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案

F9Ph2SC13-2-1 標準委員会の活動について

F9Ph2SC13-2-2 標準委員会の改革について

F9Ph2SC13-2-3 日本原子力学会標準委員会組織図

F9Ph2SC13-3 人事について

F9Ph2SC13-4-1 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件(案)」標準案の標準委員会書面投票のコメントへの対応案について

F9Ph2SC13-4-2 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件(案)」標準案の標準委員会書面投票のコメントへの対応案 (標準委員会書面投票資料との新旧比較)

F9Ph2SC13-4-3 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件(案)」標準案 (書面投票コメント反映案)

F9Ph2SC13-5-1 L3 対象廃棄物の範囲とその特性

F9Ph2SC13-5-2 L3 対象廃棄物の処分例 (JPDR の状況) について

F9Ph2SC13-5-3 L3 対象廃棄物の取扱いに係る技術的要件の整理

F9Ph2SC13-6 L1 廃棄体品質確認標準の第34回標準委員会中間報告に対するコメント対応案

F9Ph2SC13-7 「LLW 廃棄体等製作・管理分科会」の予定案

F9Ph2SC13-参考1 書面投票添付資料 (第35回標準委員会(2009年2月23日)のコメント対応について)

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、開始時に 15 名の委員の出席があり、分科会成立に必要な委員数 (12 名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録 (案) の確認 (F9Ph2SC13-1)

事務局より、第 12 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録 (案) が紹介され、承認された。

(3) 標準委員会の活動について (F9Ph2SC13-2)

事務局より、標準委員会の活動状況について、説明が行われた。

(4) 人事について (F9Ph2SC13-3)

① 報告

委員退任

事務局より、高橋 邦明氏 (日本原子力研究開発機構) の委員の退任報告があった。
常時登録参加解除

事務局より、大塚 久雄氏 (原子力環境整備促進・資金管理センター)、山田 隆氏 (日本原子力技術協会) の常時参加者登録の解除の報告があった

② 承認

事務局より、新委員として、目黒 義弘氏 (日本原子力研究開発機構) が推薦されている旨紹介され、決議した結果、新委員に選任された。

(5) 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件 (案)」の標準委員会書面投票への対応について

中瀬委員より、資料 F9Ph2SC13-4-1, 2, 3 及び資料 F9Ph2SC13-参考 1 を用いて、標準委員会書面投票に対する対応案の説明がなされた。ただし、意見付反対のコメントの一部に関しては、今後検討となっている。結果として、今後の対応事項以外は一部修正等により了承された。

また、意見付反対が発生した場合の今後のスケジュールに関して、学会事務局にて、過去の事例を踏まえて、標準委員会だけでなく、専門部会への報告が必要なのかなど手順と工程を示すこととなった。

なお、分科会委員については、書面投票の結果を反映した標準案に関して、コメントがある場合は、来週中に幹事へ連絡をすることとした。

以下に、主な質疑応答を示す。

- ・ 反対意見に関して、どの様な対応を考えているのか？
→ 詳細なコメントもいただいているため、これに対応すると共に、標準全体構成を示す形での説明を別途行う予定。
- ・ 附属書 I の参考文献の著名者として“電力 10 社…”とあるが、この引用で良いのか、社

名などが必要ではないのか、など記載様式を出典元（電力会社）、学会事務局等と確認、調整すること。

- ・ 標準委員会書面投票で、構成が分かりにくいとのコメント対応として、解説の最後に「その他の解説事項」として規定事項と附属書の説明を追加しているが、ユーザーへの配慮として技術基準の構成及び用語に合わせて本標準も作成していることなどの背景・経緯と共に、標準の全体構成を示す解説表 34 を解説の冒頭に示すこと。
- ・ 例えば、“4.4.1 容器に封入したもの”では“d)容器製作時の品質管理”と規定しているが、次の“4.4.2 容器に固型化したもの”では同内容が明確に記載されていないなど、廃棄体の種類毎の規定内容で曖昧な箇所がないか等について確認すること。

(6) L3 対象廃棄物の取扱い方法と品質確認方法に関する標準化について

片寄幹事より、資料 F9Ph2SC13-5-1 及び 2 を用いて、L3 対象廃棄物の特性及び事例の説明がなされた。以下に、主な質疑応答を示す。

- ・ 資料 F9Ph2SC13-5-1 の重要な記載内容は、標準にどのように、取り込むつもりなのか？
→ 今後の全体的な検討も踏まえ、本体／附属書などに取り込むことを考えている。
- ・ L3 は、全ての廃棄物種類を対象としてきた L1/L2 と異なり、コンクリート等廃棄物に限定されていることが、大きく異なる。
- ・ 資料 F9Ph2SC13-5-2 に埋設施設の「空げきが残らないように措置」とあるが、有害ななどの枕詞があるのでは？全ての空げきを無くすことは、技術的に達成困難である。

また、北島委員代理より、資料 F9Ph2SC13-5-3 を用いて、L3 対象廃棄物の取扱いの技術的要件に関する説明がなされ、了承された。以下に、主な質疑応答を示す。

- ・ 技術基準に、「廃棄物埋設地は、土砂等を充てんすることにより、当該廃棄物埋設地の埋設が終了した後において空げきが残らないように措置すること」とあり、先般のご指摘に関して、過去の安全委員会の基本的な考え方などを踏まえ、考え方を整理しておくことが必要。
- ・ 技術基準では、要求されていないが、L3 の場合の標識に関する考え方もまとめておくことが必要になるものとする
- ・ 次回以降も本技術的要件のまとめに対して、議論を深め、分科会としての結論をまとめる必要がある。

(7) 「L1 処分対象廃棄体の第 34 回標準委員会中間報告に対するコメント対応案」について

片寄幹事より、資料 F9Ph2SC13-6 を用いて、L1 廃棄体品質確認標準の中間報告に対するコメント対応における QMS 記載の修正案、並びに確認、検査、管理の用語に対する基本的な考え方に関する説明がなされ、今後これらを元に検討して行くこととなった。

なお、用語については、これまで、何度も、議論してきており、簡単に決められるものではないが、各委員の意見・アイデアを 1 週間程度で、幹事に提示することとなった。以下に主な意見を示す。

- ・ 標準タイトルの変更案としている「余裕深度処分対象廃棄体の検査方法」に関して、JIS

などの同じ「・・・検査方法」のタイトルとしている標準の内容から受けるものと同様に、
詳細な手順等を示すような印象を受ける。

(8) 今後の分科会の予定について

片寄幹事から、資料 F9Ph2SC13-7 を用いて、本分科会の今後の予定について、前回提示案のうち主な議題等を一部修正したことの説明があり、了承された。

6. その他

次回分科会は、平成 21 年 5 月 14 日（木）午後に仮決めされた。

以 上